

【京都府】産後うつ発症・重症化を防止するための産後うつ兆候検知技術

課題の背景

- ・産後1年未満に死亡した女性の死因で最も多いのが「自殺」です。特にその要因として課題となっているのは産後の女性の10～20%が罹患すると言われている「産後うつ」であり、早期に産後うつの兆候を捉え、市町村保健師や子育て支援者、医療機関等、地域で支援することで重症化を防止することが重要。
- ・しかし、現行では、妊産婦メンタルヘルスのスクリーニング手法は、「エディンバラ産後うつ病質問票（EPDS）」の回答内容を点数化して判断する方法の他、育児支援質問表（流産死産の有無、相談者の有無、住まい環境など）や赤ちゃんへの気持ちを確認する質問表（いとしいと感じる、怒りがこみ上げる、この子がいなかったら）等を組み合わせて、産後うつ病の危険因子や育児を困難にする背景を総合的に評価している。しかし、回答者が自覚していない心身の変化（産後うつの兆候）までを捉えることは難しい状況。
- ・京都府は子育て環境日本一を目指しており、その一環としても本課題に積極的に取り組み解決を図る。

課題のゴール

- ・産後うつの兆候をバイタルサイン等の客観的なデータから捉え、市町村保健師や子育て支援者、医療機関等による積極的な支援が必要な対象者（産後うつ予備軍）を抽出したい。

求められる要件（機能要求・関連基準等）

- ・必要なデータの測定から支援対象者候補の抽出までの一連の仕組みを整えること。
- ・測定するデータの数値と産後うつ発症の関連性に係る科学的根拠を有すること。
- ・利用者、行政機関、医療機関に過度な負担（体力的、金銭的、時間的）がかからないこと。
- ・個人情報の取扱等に問題がないこと。

協力事項

- ・市町村の母子保健担当部署との連携支援（ユーザー紹介等）
- ・（実証効果が優良であれば）製品、技術の紹介、広報
- ・取組内容の評価